

## 「平成 27 年度 JAAGA 嘉手納基地等研修所感」



(個人賛助会員)

清水 一平

2月25日～2月26日に一泊二日の日程で行われたJAAGA(日米エアフォース友好協会)の嘉手納基地等研修に、参加希望者が多い中、幸運な事に参加させて頂く事が出来ました。私は前年の12月に入会させて頂いたばかりで、この研修

が初めて参加する行事で何も分からない状態だったのですが、とても楽しみにしていました。私がJAAGAに入会させて頂いた理由は、テレビやニュース等であまり報道されない在日米軍や自衛隊の事を知りたかった事と、日本に住んでいるとあまり使う機会がない英語を使って在日米軍で勤務する人達と会話をする事で、英語を使う機会を増やしながらかその人達の事をもっと知る事が出来るのではないかと考えたからです。

研修初日の朝に雪が降り研修が中止になるのではないかと不安になりましたが、予定通り行われ、人間基地から那覇基地までは約3時間で到着しました。C-1輸送機に乗ってみて、滑走路で加速を始めてからの離陸や着陸してからの減速が、非常に短い時間で行える輸送機であると思いました。那覇基地に向かっている間にコクピットの見学をさせて頂き、私が見学した際には、和歌山県の上空を飛行していました。飛行中のコクピット内やそこから眼下の景色を見るという事は、普段は絶対に出来ない事であり、とても貴重な体験をする事が出来ました。

那覇基地に到着後、南西航空混成団司令の荒木空将をはじめとする隊員の皆様の出迎えを頂いた後、空自主要幹部の皆様との昼食と那覇基地の概要説明、南西航空混成団司令の講話が行われました。那覇基地の概要説明では、今年の1月31日に編成されたばかりの第9航空団がおり、この航空団には南西域で唯一の戦闘機部隊が所属し、陸海空の3自衛隊が同じ基地内にいてそれぞれの自衛隊が米軍と訓練を行っている事、南西航空混成団司令の講話では、日本の南西域の情勢は非常に緊迫していて変化が大きくなる可能性があり、不安になるかもしれないが、つけ入る隙を与えないようにしっかりと対応していくので安心して欲しい、と司令がおっしゃられた事が印象に残りました。

嘉手納基地へ向かうためにバスに乗る頃には那覇基地に到着した際の遅れを回復しており、時間通りに出発しました。車内から沖縄の街並みを見ていて、本土でニュースや新聞等で取り上げられる意見は米軍基地は沖縄から出て行って欲しいというものばかりであるが、実際に沖縄に住んでいる人達はそれに対してどのように思っているのか、聞いてみたくになりました。嘉手納基地には予定の時間より少し早く

着いた為しばらく待機した後、簡略化された手続きで入る事が出来て、本当に驚きました。嘉手納基地に到着後は第18航空団司令部に移動し、同司令官のバリー・コーニッシュ准将の出迎えを受けた後、司令部の中で歓迎の挨拶と第18航空団や嘉手納基地の概要説明を受けました。その説明で印象に残ったのは、第18航空団はアメリカ本土に一度も駐留した事がなく海外に駐留している事、嘉手納基地はここからの飛行時間が1時間以内で台湾海峡、2時間以内でスプラトリー諸島、3時間以内で東京、北京、ソウル、4時間以内でロシアやインドに行く事が出来、太平洋地域の多くをカバーしている事から、太平洋の要となり、地政学上重要な所であるという事でした。その後米軍の宿舎で1時間ほど休憩を取りましたが、部屋にはお風呂やトイレ、ベッド、台所もついており、日本のアパートやマンションのような感じを受け、広くきれいである事から、住む事が出来ると思いました。将校クラブで行われた夕食懇親会では、同じテーブルで食事をする事になった第18施設群司令官のロビソン大佐と短い時間でしたが会話を楽しみ、夕食懇親会が終わる直前にコーニッシュ准将とも話をする事が出来、彼がJAAGAのサポートに感謝していることが分かり、非常に有意義な時間を過ごす事が出来ました。

研修2日目は朝7時からコーニッシュ准将も同席され、アメリカ式の朝食を食べました。その際に、今回の研修の予定には入っていなかったF-22ステルス戦闘機が実際に動いている所を見る事が出来て良かったです。アラスカまで飛行する場合には片道7~8時間飛行しなければならず、食事等も操縦しながら行くと聞き、パイロットは大変な仕事であると思いました。朝食後に第18運用群司令官のミノー大佐より同群の概要説明を受けた後、F-15戦闘機とKC-135空中給油機、HH-60救難ヘリコプターの実機を前にしてパイロットから直接説明を受けた事で、より理解を深める事が出来ました。その後嘉手納基地の皆様の見送りを受けて、那覇基地に戻りました。

那覇基地に到着後昼食前に、航空自衛隊と米空軍が一緒に行っている訓練を短い時間でしたが見学させて頂きました。この訓練は、何らかの理由で通常の着陸が出来ない場合に備え空母に着艦するのと同じように滑走路にワイヤーを張って着陸するための練習と、航空自衛隊と米空軍の連携や親睦を深める為に行っている事が印象に残りました。昼食後、短い時間でしたが航空自衛隊のF-15戦闘機の見学と説明を受け、南西航空混成団司令、基地司令と集合写真を撮った後、当初の予定をすべて終了し入間基地にほぼ時間通りに到着し、無事に今回の研修を終える事が出来ました。

今回の研修に参加して、日本の南西域の情勢、日米同盟の重要性、JAAGAのサポートに対して米空軍が感謝している事を理解する事が出来ました。又、日本の防衛をアメリカに頼るのみではなく、日本も積極的に行いつつアメリカと協力する事や、日本のために働いてくれている米軍や自衛官の皆さんに感謝する事が大切ではないかと思いました。今回の研修を主催して下さったJAAGAの皆様と、任務でお忙しい所を時間をとって下さった航空自衛隊と米空軍嘉手納基地の皆様には、本当に有難う御座いました。